

# 平成24年度 事業計画

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

## ◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして重要な産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、またこれまで蓄積してきた情報収集力、技術力や国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にしながら、陶芸館、信楽産業展示館、創作研修館の三つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

平成24年度は県および甲賀市からの指定管理の2年目にあたり、また公益財団法人へ移行するため、当財団を取り巻く環境の変化を踏まえ、第Ⅱ期中期経営計画に基づき、目標達成に向け着実に事業を推進するとともに、これまで以上に健全で責任のある法人経営に努める。

## I. 県民に親しまれる施設運営に関する事業 【施設利用促進事業 14,271千円】

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、芝と植栽の管理に努め、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

### 1. 公園機能の充実

#### (1) 陶芸作品の野外設置

陶芸の森という施設の名にふさわしく、陶芸家の創作作品の野外設置を進め、いわば野外美術館として、自然の中で広く県民が芸術作品を鑑賞できる機会を提供する。

#### (2) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、陶芸館展示監視補助、園内園芸作業などボランティアによる活動支援を受け、より積極的に進め、利用者へのきめ細かなサービスを提供する。また活動の推進やボランティア同士の連携を目的としたミーティングを開催し、ボランティア活動の向上のための研修を実施する。

### 2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

信楽焼の抱える滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森は、いかに地域資源を活かしながらいピーターをつくっていくことが課題となっている。

集客促進のひとつとして、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種体験講座や陶器市、様々なレクリエーションイベントを開催し、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創っていく。また、びわこビジターズビューローや観光協会等と連携し、陶芸の森を含めた信楽の地域資源を活かした観光企画等を提案し誘客促進に努める。

#### (1) しがらき体験 しがらき学ノススメ!

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるように陶芸制作講座を開催する。初心者から楽しめるうつわづくりや技法別の講座、また穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げる。団体向けには、目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図る。

## ア 実技講座シリーズ

やきものについて、広く学ぶことができる実技講座を開催する。内容については、初心者向けの講座から、一步踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催する。

(ア) 「手びねりでうつわをつくろう！食のうつわをつくる」

＜開催期間＞ 6月17日（日）

陶芸入門者向けの講座です。手びねりで食器を制作し、釉薬をかけて焼成します。初心者の方にもわかりやすい指導で陶芸に親しんでいただくきっかけとします手びねりでうつわをつくる。

「手びねりでうつわをつくろう！クリスマスツリー型ランプシェードをつくる」

＜開催期間＞ 11月25日（日）

若者向けの講座です。粘土飾り付けをして色を塗ってクリスマスツリーの形を下ランプシェードを作ります。あなたも素敵なクリスマスツリー型ランプシェードを作ってみませんか？

【応募資格 高校生から35歳まで ペアで1人分の参加も可能とする】

(イ) 「技法別講座 ミニ窯をつくろう！」

＜開催期間＞ 平成25年3月3日（日）

手びねりでぐい呑み数個焼くことが出来るミニ窯を制作する。素焼きをした後、ミニ窯の焼成体験を実際におこないます。

(ウ) 「技法別講座 “ラク焼”の茶碗をつくろう！」

＜開催期間＞5月27日（日）、11月17日（土）

陶芸家の指導のもと、茶碗などを制作し、後日ラク焼をおこなう。使用粘土3kg

(エ) 「技法別講座 イッテコイ窯で作品を焼成しよう！」

＜開催期間＞ 12月9日（日）

手びねりで食器、茶碗、花器など自由に作陶し、後日、イッテコイ窯（灯油薪併用窯）で、焼き締めや釉薬ものを焼成をおこなう。

(オ) 「技法別講座 土鍋をつくろう！」

＜開催期間＞ 11月4日（日）

陶芸家の指導のもと、手びねりで直火にも使える土鍋を制作します。

(カ) 特別展「明治・大正の日本陶磁器」関連企画

「技法別講座 近代信楽の技を体験・ミニ火鉢をつくろう！」

＜開催期間＞ 8月4日（土）

ワインクーラーなどにも使えるミニ火鉢に掻き落としイッチンなどの技法を学びながら加飾をおこなう。

## イ 穴窯体験講座の開催

信楽焼の伝統技術、歴史を広く一般の方に知ってもらうため、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、穴窯で焼成をする体験を通じて知識と技術の普及と公開を図る。

＜開催期間＞

初級講座3回 9月16日（日）「穴窯講座（初級向け）－自由制作」

9月22日（土）「続・しがらきやき」関連企画

10月28日（日）「穴窯講座（初級向け）－干支をつくる」

中級講座1回 9月23日（日）「穴窯講座（中級向け）－花入をつくる」

上級講座1回 10月13日（土）・14日（日）「穴窯講座（上級向け）－大壺をつくる」

#### ウ 穴窯焼成クラスの開催

<開催期間> 年間2回 前期9月中旬、後期3月中旬に焼成

焼成クラスについては、穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、一定量の粘土を渡し各々が作品づくりをおこなうだけでなく、自ら穴窯での焼成することにより、薪による焼成技術の習得もめざす。年度の前半と後半の2回開催することで穴窯講座のリピーターの受け皿としての事業の内容充実を図る。

#### エ 登り窯講座

<開催期間>

初級講座 2回 7月22日(日)「登り窯講座(初級向け)ー片口鉢をつくる」

8月26日(日)「登り窯講座(初級向け)ー自由制作」

上級講座 1回 7月14日(土)・15日(日)「登り窯講座(上級向け)ー大壺をつくる」

信楽焼の伝統に基づき表現の幅を広げるため、従来から穴窯を積極的に活用してきたが、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、登り窯(火袋、一の間)で焼成する体験を通じて登り窯の知識と技術の普及および公開を図る。

#### オ しがらき体験 しがらき学ノススメ!PR

「しがらき学ノススメ」の講座等について、広く広報をおこない、幅広く参加者を募集するための講座案内用のチラシを制作し、県内の公民館、各地の陶芸教室等に配布し、積極的なPRに努める。

#### カ 団体随時受入、大学等教育機関に対するレクチャー実施

各教育機関の学生を対象として、職員等によるレクチャーを実施し、信楽焼や陶芸の森をより理解してもらうきっかけとする。

#### (2) イベントの開催・誘致

陶芸の森を舞台に軽スポーツ、芸能、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。特に春の連休には、地域グループの主催による陶器市を開催する。

#### ア 信楽作家市 in 陶芸の森の開催

<開催期間> 平成24年5月2日(水)～5日(土)

信楽町内の陶芸家を中心に組織している信楽作家市 in 陶芸の森実行委員会と共催で、5月のゴールデンウオークに「手づくりのやきもの」を販売するイベントを開催する。

#### イ セラミック・アート・マーケットの開催

<開催期間> 平成24年10月6日(土)～8日(月)

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸家を中心とする工芸家が制作した、質の高い作品を販売する「作り手と使い手の出会いの場」として、「第17回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森2012」を陶芸の森において開催する。

#### ウ わくわくウォーキング

陶芸の森の園内および周辺散策路や観光ミニ冊子「陶芸の森うお～か～」を有効活用し、ウォーキングを実施し、園内の豊かな自然を満喫してもらう。また歩きながら野外に設置された数々の陶芸作品を鑑賞し、簡単なゲームに参加してもらうなど、幅広い年齢層が楽しめる企画として、わくわくウォーキングを開催する。

#### エ 陶芸の森フォトコンテスト

四季折々の変化に富み、豊かな自然に恵まれた陶芸の森を素材として、フォトコンテストを行い、それをきっかけとして陶芸の森の魅力発信をおこなう。

### (3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努める。

### (4) ホームページ・バナー広告

陶芸の森ホームページに協賛広告を募集し、よって収入の増を図る。

### (5) 観光および集客促進のための広報活動

滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客を集客するために新聞等の媒体への広告をおこなうとともに、観光案内チラシなどを旅行社等に対して訪問配布するなど団体客の誘致にむけ、積極的なPRに努める。

また展覧会や各種講座等、施設の案内などがわかりやすく情報提供できるよう、ホームページの充実を図る。

### (6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図る。

### (7) 収蔵品データベースのウェブ公開

陶芸館の所蔵作品は、平成23年度現在で約1200件を数える。検索機能を備えた収蔵品データベースをインターネット上で広く一般公開することで、さらにコレクションの有効活用を図る。

## 3. 施設の管理【一般管理、施設維持管理計 151,440千円 信楽産業展示館管理 18,540千円】

陶芸の森が、地域の産業、文化および観光の拠点施設として機能し、また来園者にとってもやすらぎ感のある施設となるよう良好な状態を維持し、一層の利用が図られるよう、日々巡回しながら適切な維持管理に努める。また各施設のバリアフリーにも配慮し、子どもや高齢者、障害者の方にも利用しやすい施設管理に努める。

さらに、陶芸の森全体の見所などをおさめた観光ミニ冊子「陶芸の森うお〜か〜」を活用し、親切で丁寧な園内の案内と誘導に心がけ、園内全体のインフォメーション機能の向上を図り、また利用者からの要望等については、迅速かつ適切に対応できるよう情報の共有化を図り、利用者にとって快適なサービスの提供に努める。

## II. 陶芸文化の発信事業

### 1. 展覧会開催事業 【展覧会開催事業 34,727千円】

これまでも時代の動きをいち早くとらえながら、産地への刺激を意識し、地域産業の振興にリンクするテーマによる展覧会や、滋賀の魅力である近江のやきもの文化や歴史、滋賀県在住の作家たちなど地域に根ざした展覧会を展開してきた。陶芸館では、幅広く国内外の多彩なやきもの文化の魅力を新しい視点を交えながら、分かりやすく紹介する展覧会を企画発信していく。

平成24年度は、特別展「陶芸の魅力×アートのドキドキ」と題して、著名な芸術家たちの陶芸に迫る。夏の特別展「明治・大正時代の日本陶磁」では、国内4館の共同研究企画として、欧米で一世を風靡した明治・大正の日本陶磁が一堂に会する展覧会を開催する。また秋の特別展「続・しがらきやき(仮称)」では、甲賀市無形文化財技術保持者の大西忠左を中心に、信楽・勅旨に息づく小物ロクロの伝統の技を紹介する。春の特別展「フランス印象派の陶磁器ジャポニス

ムの成熟 1967-1884」では、フランスの印象派の芸術家らによるやきものを全国巡回に先駆けて当館にて展示する。これまで紹介することのなかった新しい視点からメッセージを発信し、多くの人に陶芸の森と信楽、そしてやきもの文化の幅広い魅力をさらにアピールする。

来園者の少ない冬季（12月下旬～2月末）には陶芸館を休館し、収蔵品の状態チェック、陶芸に関する調査、普及活動、展示設備点検にも力を入れる。

ア. 特別展「陶芸の魅力×アートのドキドキ」

<開催期間> 平成24年4月1日（日）～7月6日（金）（平成23年度からの継続事業）

ジョアン・ミロやパブロ・ピカソらによる陶芸作品は戦後の陶芸に刺激を与え、1950年代に世界各地で開花する造形的な新しい陶芸への後押しとなった。岡本太郎や横尾忠則など、信楽で陶板制作し、また陶芸の森でも陶芸家だけでなく画家や彫刻家らによる陶芸制作されてきた。何が彼らを陶芸に駆り立てるのか。本展では、画家や彫刻家らが土に魅せられ、陶芸に挑戦した作品のほか、現代の陶芸の中で陶芸とアートが関連しながら成熟してきた現代の陶芸の一断面を、日本やアメリカなどの陶芸シーンから紹介する。本展覧会は、当館開催の後、平成25年度に岐阜県現代陶芸美術館、兵庫陶芸美術館に巡回する。

イ. 特別展「明治・大正時代の日本陶磁―産業と工芸美術―」

<開催期間> 平成24年7月14日（土）～8月26日（日）

明治時代に入り、日本政府が推し進めた殖産興業・輸出振興政策を背景として、欧米で一大ブームを巻き起こした日本陶磁。本展では、近年の最新研究成果をふまえながら、当時の日本各地で制作された陶磁器を一堂に会し、明治時代から大正時代にかけて発展していった日本陶磁の世界を紹介する。なお当展覧会は、財団法人地域創造の<平成24年度公立美術館巡回支援事業>の助成金を受け、はつかいち美術ギャラリー、滋賀県立陶芸の森、瀬戸市美術館、茨城県陶芸美術館の4館による共同企画巡回展として開催する。

ウ. 特別展「続・しがらきやき―大西忠左と勅旨の名工たち」（仮称）

<開催期間> 平成24年9月6日（木）～12月16日（日）

近世の信楽において、小杉碗や神仏具、灯明具などで活況をみせた勅旨の小物陶器。甲賀市無形文化財技術保持者・大西忠左は、その伝統を現代に受け継ぐ陶芸家のひとりである。本展では、大西の作陶を回顧するとともに、小物陶器の伝統を継承する勅旨のつくり手たちの作品を紹介する。なお、本展覧会は芸術文化振興基金の助成金交付対象事業である。

エ. 特別展「フランス印象派の陶磁器 1867-1884―ジャポニズムの成熟」

<開催期間> 平成25年3月9日（土）～3月31日（日）

1870年代までは豪華な磁器製のテーブルウェアメーカーとして名を馳せていたアビラント社が、それまでの上質な透明感のある生地とは異なる、テラコッタによる当時はまだ正統と認められていなかった印象派スタイルの絵付けや、当時一世を風靡していたジャポニズムの絵柄をモチーフとした。本展では、アビラントの作品を通して、ジャポニズムの成熟と印象派の画家たちの新しい陶芸への取り組みなど、新しい色彩やテクスチャーの探求に果敢に取り組んだ作品の数々を紹介する。

オ. 収蔵品収集(管理)事業

陶芸館では、収蔵品収集に際して、国内外の陶芸に造詣が深い学識経験者や美術館館長らで組織される陶芸館収蔵品収集審査会を2年に1回開催し、収蔵候補作品について審議している。なお、価格評価については、外部の有識者で構成される収蔵品価格評価委員により審議を行っている。

危機管理への対策も計画的に実施し、盗難及び地震対策、カビや共箱の虫食い防止など、収蔵作品の安全確保と保全に種々の対策を講じている。また、今後も継続して収蔵品（収蔵庫）の点検整理作業を実施し、作品の点検と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の整備も行う。

#### カ. 陶磁ネットワーク会議関連

<本会議・開催期間> 平成24年6月頃(予定)

平成20年度に結成された国内8館の陶磁器専門美術館・博物館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館の交流や情報交換を深め、共同企画展の立案・開催、共同研究、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力などを目的とする。

本年度は兵庫陶芸美術館で開催予定の本会議への出席、平成25年度開催予定の共同企画展「コレクション展」(仮称)の開催準備や共同研究「現代陶芸」の打合せ等への出席を予定している。

<参加予定館>

滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、愛知県陶磁資料館、岐阜県現代陶芸美術館、福井県陶芸館、茨城県陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、佐賀県立九州陶磁文化館

#### キ. 陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館ギャラリーは、気軽に利用できる館内唯一の無料展示スペースである。これまで陶芸の森の役割や事業を、入館者に理解して戴く情報発信の場として活用してきた。今年度も県内若手中堅作家の展覧会、アーティスト・イン・レジデンスや普及啓発事業の成果展を開催し、陶芸の森の独自性をより明確に内外に示してゆく。

(内容及び開催期間)

(1) 「シリーズ湖国の陶芸家ー現代へのつくり手達の眼差し」

<開催期間> 第6回:平成24年10月6日(土)~11月7日(水) 予定

第7回:平成24年11月10日(土)~12月16日(日) 予定

内容:滋賀の中堅・若手陶芸家の新作を紹介。彼らのやきもの観や胎動する湖国のやきもの像を探りながら、県内陶芸家の最新情報の収集と発信を試みる。秋に2回2名の陶芸家を紹介予定。

(2) 「子どもたちの土の造形ー本物との出会いから展」

内容:小学校との連携授業や宝物づくり事業など、陶芸の森が他に先駆けて取り組んできた独自の普及啓発事業の成果を、子どもたちが制作した作品を通して内外に発信する。

(3) 「アーティスト・イン・レジデンス企画展」

<開催期間> 夏季および冬季の年2回開催予定

内容:平成23年度にゲスト・アーティストが創作研修館で滞在制作した作品を発表する成果展。

#### ク. 博物館実習

陶芸館では、平成7年度から実習生の受け入れを行っている。これまで、関西圏を中心に21大学・119名の学生を実習生として受け入れてきた。今年度も10名を受け入れ、展覧会と普及啓発についての講義、また作品の取り扱いと梱包や調書の作成など、実物資料を扱う実技演習をおこなう。

<開催期間> 平成24年8月21日(火)~8月24日(金)

#### ケ. 特別鑑賞塾

陶芸館では、収蔵品を手にとって、学芸員による解説を聞きながら鑑賞し、作品をより身近に感じてもらい、また技法や作者に近づける取り組みとして、特別鑑賞塾を有料で開催する。

<開催期間> 第11回:平成24年6月15日(金)、6月17日(日)

第12回:平成24年11月9日(金)、11月11日(日)

#### コ. カタログ販売

これまでの特別展等の展覧会カタログをミュージアムショップで販売する。

## 2. 創作事業 【創作事業 8,889千円】

### アーティスト・イン・レジデンス事業

創作事業では、平成4年以降、48ヶ国から860名あまりの国内外の陶芸家、美術家を受け入れ、或いは招いてのアーティスト・イン・レジデンス事業をおこなっており、やきものをテーマにした文化交流の場として定着してきている。

この「やきものをテーマとした交流」を一般の方も含めて認知、促進させるために平成23年度から「創作研修館オープン・スタジオ」を開催し交流の場としてきたが、新しい感覚を持った若い陶芸を学んでいる学生たちをも交流の場に含めていくためにワークショップ、インターンシップでの学生受け入れ等、美術系大学の陶芸科との交流事業の拡大を図る。

また、陶芸文化の普及を図るために、陶芸をテーマにしたレクチャーをシリーズでおこなうとともに、資料閲覧室を活用し、釉薬や粘土のテストピースなど情報提供するとともに、また、インターネットを利用してレジデンス事業の関係者のネットワークを強化していくとともにアーティスト・イン・レジデンス事業のイベント、成果についてホームページで発信していく。

さらに、登り窯周辺にアーティスト・イン・レジデンス事業で来館する陶芸家たちが制作に使える薪等で焼成する窯を増やしていくとともに、一般の来園者に対して、窯についてわかりやすい解説付きの案内板等を設置することで、陶芸文化の普及を図るため「(仮)窯の広場」づくりについて検討をおこなう。

これらのことをとおして、陶産地である信楽のアーティスト・イン・レジデンスとして新しい陶芸文化の創造につなげていく。

#### ア. スタジオ・アーティストの受け入れ

スタジオ・アーティストについては、30名程度を受け入れる。

#### イ. ゲスト・アーティストの招聘とレクチャー等の開催

今年度は、6名のゲスト・アーティスト(うち2名は公募枠)を招聘

招聘プログラムについては、一部公募制を取り入れ若手の陶芸家の登竜門として位置づけられるよう努める。

イケムラ・レイコ(ドイツ在住、ベルリン美術大学教授)

黒川 徹(京都府在住、公募)

桑田卓郎(岐阜県在住、公募)

神農 巖(滋賀県在住、日本工芸会正会員)

ギャレット・マスターソン(リーディリー大学教授、アメリカ在住)

ジャネット・マンズフィールド(オーストラリア在住、前国際陶芸アカデミー会長)

小林勇超(信楽町在住、日本工芸会正会員)

#### ウ. 国内外の機関との連携強化等

すでに陶芸の森と関わりのある、国内外の諸機関(国内の美術系大学、アトリエ・ダール(フランス)、NCECA 全米陶芸家会議(アメリカ)、IAC 国際陶芸アカデミー等)と引き続き連携し、陶芸家の受け入れをすすめる他、各種の事業で関係の強化を図る。

#### エ. 地域での情報発信拠点として

##### (ア) 創作研修館オープン・スタジオの開催

地場産地対応として「創作研修館オープン・スタジオ」の日を設け、年間8回、スタジオを一般に公開し、またそれにあわせてゲスト・アーティストなど滞在作家や職員らによるレクチャーやワークショップを開催する。今年度については、「陶芸の森レクチャー・シリ

ーズ」として、外部講師を招いての講演会を開催する等内容を充実し、産地後継者とアーティストの交流を図っていく。

<開催期間> 平成24年4月～平成25年3月まで 計10回開催(予定)

(イ)陶芸の森レクチャーシリーズ「(仮称)やきものの過去、現在を踏まえて将来を探る」

創作研修館でのレジデンス事業については、平成24年で20年目を迎えることとなる。この節目の年に陶芸の森に関わりを持たれた方々を中心に、陶芸家、評論家等関係の方々によるレクチャーをシリーズとして開催することで、これまでに培われた陶芸の森の陶芸観を再確認する。オープン・スタジオの一環として、平成25年1月～3月までの間に計2回開催する。今回は、陶芸家、美術家2名によるレクチャーとその後の対談でやきものの可能性を追求する。

(ロ)やきもの技術相談員制度および情報閲覧室の活用

やきもの技術相談員制度を活用し、信楽で培われた貴重な技術の継承と指導をスタジオ・アーティストらに対しておこない、また釉薬や粘土のテストピースや過去に滞在した作家データなどを整理した情報閲覧室の活用を図ることで、創作研修館の活用を高める。

(ハ)信楽焼の担い手たちとの交流事業

信楽焼の若手の技術者や作家らと滞在する国内外の陶芸家や芸術系大学の陶芸科学生らで、やきものをテーマとした交流の場を、オープン・スタジオ開催に併せて、創作研修館のスタジオで提供し、お互いの感性を磨き、信楽焼陶器産業の活性化を図る。

### 3. 子どもやきもの交流事業 【子どもやきもの交流事業 5,535千円】

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行う。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や、陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげたい。

(1)「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」宝物事業と連携

年々、陶芸の森の「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」への参加校が増えてきている。陶芸の素晴らしさや、陶芸の森を広めるために学校への出張授業、学校が来園して行う来園プログラムを継続し、さらに美術館の事業として内容を吟味しながら進めていく。「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携をとりつつ、本事業では、新規のプログラムの開拓などを中心に担当する。これにより、信楽へ来て来館するきっかけづくりにつながる来園プログラムについても、同様に継続していく。

また陶芸館ギャラリーを活用した、連携授業の成果展を開催し、学校だけでなく親とともに子どもたちが陶芸の森に来館することを目指し、来園者の新規開拓、展覧会への動員につなげるものとする。

- ・ 連携授業の新規プログラムの開拓など
- ・ 連携授業の講師養成事業
- ・ 学校からの来園プログラム
- ・ 陶芸館ギャラリーを活用した連携授業の成果展の開催
- ・ ねんどと遊ぶ事業

(2) 夏季研修会ー美術館との総合的学習のあり方を探る

世界にひとつの宝物づくり事業と連携

<開催期間> 平成24年8月(予定)

学校教育や社会教育、美術館・博物館に携わる関係者を対象に、参加者が実際に本物に触れるな



ど、実践をとおして陶芸や美術が子どもの健全な成長に果たすための、美術館の役割を考えていく。この研修会は、MIHO ミュージアムと連携し、陶芸の森では展覧会見学とワークショップで構成する。事業の運営は、世界にひとつの宝物づくり事業と連携をとりながら、両者の広報活動として広げていく。

なお、この研修会に併せて連携授業等で制作した子どもの作品を夏休み企画としてギャラリーで展示発表する。

### Ⅲ. 産業の振興に関する事業 【陶芸産業振興事業 1, 154千円】

信楽焼の生産額は、安い海外製品の流入や消費者の嗜好の変化などから最盛期の約半分程度まで落ち込んでいる。

このような状況の中で、信楽焼の持っている伝統技術を将来に継承し、人材育成を図ること、いわば将来の発展への足場強化を目的に、信楽高校デザイン科の外部研修の受け入れ信楽陶器工業協同組合青年部を対象にした登り窯焼成事業を実施する。

また、信楽産地の新製品開発をデザインの側面から支援することを目的に、次の3つの事業をおこなう。信楽焼関係企業と設立したフィンランド・デザイン研究会を中心に、デザイン提供を図り支援していく「デザイン活性化事業」、新しい動物の置物の開発を目的に、製品モデルの公募をおこなう、「デザインコンペ アニマル・フィギュア 動物の置物」事業、併せて、「既存製品をベースにし、加飾による付加価値付けを既存製品におこない提案を行う」事業をおこなう。

幅の広い信楽焼の製品に対して、多くの商品提案をおこない、また、その結果を信楽産業展示館で常設的に展示することで業界に対しての発信をおこなう。

#### (1) 信楽高校デザイン科外部研修受け入れ

伝統的な陶産地である信楽焼の将来の担い手を育成するために、信楽焼伝統工芸士によるやきものへの絵付け実習を信楽高校デザイン科生徒を対象におこなう。

#### (2) 登り窯焼成事業

信楽陶器工業協同組合青年部を対象に、かつて信楽の製陶業の隆盛を支えた施釉陶器の技術や経験を次世代に確実に伝え、その伝統と経験値の保存、ならびに普及を目的に登り窯で施釉陶器の製品の焼成をおこなう。また、現在の商品のほとんどは、ガスや電気窯で焼成されているため、施釉陶器を登り窯で焼くことによって得られる、自然の灰等の釉薬への効果を活かすことで、既存の商品への付加価値付けを試みる。

#### (3) デザイン活性化事業

##### ア デザイン面からの支援による新商品の開発促進

平成19年度に信楽焼関連企業と設立したフィンランド・デザイン研究会をベースに参画企業を信楽の企業に再度呼びかけ、拡大をはかり、陶芸の森のレジデンス事業で来館制作したことのあつ作家、デザイナー等による地域産業である信楽焼の企業へのデザイン提案をおこない商品開発の促進をおこなう。

##### イ 「デザインコンペ アニマル・フィギュア 動物の置物」の実施

信楽焼としては、タヌキに代表されるように、各種の置物を生産しているが、現代の生活空間にマッチするような、モダンな「動物の置物」の開発を目的に、モデルの公募をおこない、優秀作品については表彰を行う。また優れたモデルについては、陶芸の森で試作をおこない業界に新製品のモデルの一つとして提供する。

ウ 既存製品をベースにした加飾によるデザイン面からの支援と商品の開発促進

信楽のメーカーが製造する花器やガーデンセットなどの商品について、各種の加飾技法により新しい要素を加え付加価値をつけ、新しい商品に再構成することで、新たな商品の開発につなげるための表面デザインの提案をおこなう。

#### (4) 信楽産業展示館の活用

信楽陶器商業協同組合主催の「信楽焼産業総合展」(11月から翌年9月末まで開催)にブースを借用し陶芸の森がかかわりデザイン活性化事業で開発した商品や、試作品、また滞在作家が製作したクラフト製品等を、ほぼ常時展示することで業界への発信力を高め新製品の提案のきっかけとする。

また陶芸館の特別企画展と業界が展示を担当する信楽産業展示館のギャラリーと関連するテーマでの展示をおこない、陶芸の森として、一体感のある事業展開を図ることで、陶芸館での集客、産業展示館での物販等に相乗効果を得られるようにする。

## IV. 企画事業 【企画事業 4,003千円】

### 1. ミュージアムショップの運営

来園者に、より一層陶芸を身近に感じて頂けるようなサービスを展開する。

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行う。また併せてインターネットの活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努める。

### 2. その他

#### (1) 自動販売機の設置

人々が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供する。

#### (2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供する。

#### (3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供する。